

所 管	教育委員会 文化課		
担 当	塚本	問い合わせ	0573-26-2153

報 道 機 関 各位

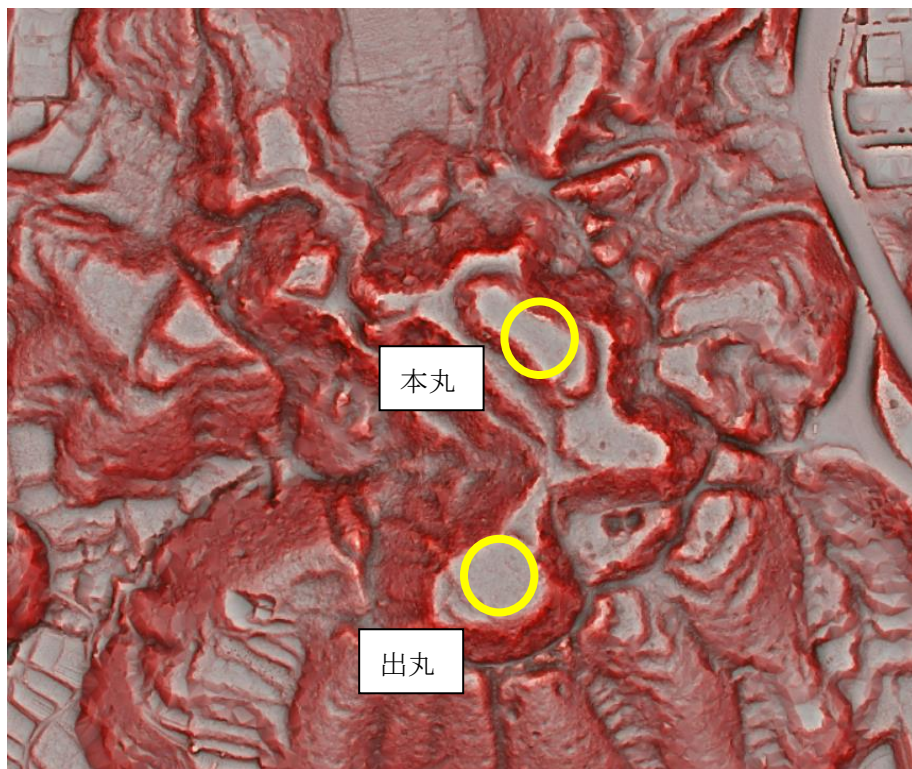
明知城跡発掘調査（令和 7 年度）の成果について

市では明知城跡の国史跡指定を目指して昨年度より 4 年計画で明知城跡総合調査事業を実施しています。この事業の一環として発掘調査を行いましたので本年度の成果をご報告します。

記

1. 令和 7 年度発掘調査の概要

- (1) 調査個所 本丸、出丸
- (2) 調査面積 本丸 86 m² 、出丸 104 m²
- (3) 調査期間 令和 7 年 10 月 6 日～12 月下旬
- (4) 調査主体 恵那市教育委員会（担当：文化課）主任調査員：塚本恵伍



発掘調査箇所

2. 調査で明らかになったこと

(1) 出丸で巨石を用いた石垣を発見

明知城は石垣のない城であると考えられてきたが、17世紀初頭(第2期)には本丸と出丸に石垣を用いていたことが判明した。出丸の石垣は岩盤を削った上に巨石を際立たせるように並べた石垣であったことが判明した。



出丸石垣上部の裏込

(※裏込は石垣背後の排水を円滑にするために小石を詰めた構造)

(2) 出丸の造成は本丸と同時期と確認

出丸は本丸と同様に大規模な造成があったことを確認した。

第1期：自然地形を削平、盛土し、平坦面(下層面)を造成した。柱穴が確認されており、造成時期は16世紀中頃と考えられる。

第2期：第1期の曲輪に切土や盛土を行い、さらに広い平坦面(上層面)を造成した。造成時期は17世紀初頭と考えられる。本丸ではそれ以降の第3期まで確認したが、出丸では確認していない。

(3) 17世紀初頭の切岸造成の技法を解明

第2期の拡張の際には本丸も出丸も階段状に斜面を削って水平にし、その上に盛土をすることで曲輪(人工的な平坦面)と切岸(人工的な急斜面)を造成していることが判明した。曲輪の端(切岸)を強固で崩れにくくするための工夫と考えられる。

(4) 出丸から高級陶磁器出土

出丸から、高級陶器の志野や中国から輸入された磁器など、豊富な遺物が出土した。これらの遺物の時期は17世紀初頭頃に集中している。

出丸から出土した遺物



左から 志野大鉢、志野向付（元屋敷窯）、志野織部大鉢



織部鉢

中国からの貿易陶磁（左から染付、白磁）

3. 発掘成果から考えられる明知城の変遷

① 第1期（16世紀中頃）

明知城が築城される。自然地形から曲輪を造成して、本丸と出丸に掘立柱建物等が建てられた。

② 第2期（17世紀初頭）

本丸と出丸は大改修により曲輪面積が拡張され、礎石建物と石垣が整備された。出土した高級陶磁器、正面に巨石を見せつける造りから、この時期の出丸は本丸と比較して格式の高い空間だったと考えられる。

③ 第3期（17世紀中葉）

明知遠山氏は山城を廃して陣屋に居を移した。本丸は顕彰の場として活用されたが17世紀後半以降使用されなくなつたと考えられる。出丸は利用されていなかったと考えられる。

4. 中井均（なかい ひとし）氏のコメント

滋賀県立大学名誉教授 恵那市明知城跡調査検討委員会委員長

「明知遠山氏という戦国時代の在地領主は16世紀半ばに城を築き、戦乱に伴い城を奪われていた。1600年の関ヶ原の合戦後、旧地に領主として戻り山城を大改修して出丸の御殿に居住したが、一国一城令や大名家格制度の整備により城を廃して陣屋に移り住んだことが発掘により明らかになった。戦国時代から近世の在地領主居城の歴史的変遷が分かったことは大きな成果である。」

5. 「岐阜県史跡明知城跡」について

(1) 概要

明知城跡は自然の地形を巧みに利用した山城で、岐阜県史跡に指定されています（昭和39年12月8日指定）。「遠山の金さん」の先祖でもある明知遠山氏の中世からの拠点でした。戦国時代の天正争乱時における明知城の役割は大きく、立地環境から織田方の主要な防御拠点として信州方面の武田氏に対峙していた城であり、その後の長篠合戦の前哨戦となった場所として、戦国史でも重要視されています。現在も迫力のある切岸や横堀、特徴的な堅堀群など戦国時代の遺構が良好に残されています。

(2) 所在地 岐阜県恵那市明智町字城山 1318 番地 1

(3) 城主の明知遠山氏について

東美濃の在地領主である遠山氏のなかでも明知遠山氏と呼ばれる支流です。遠山氏は16世紀中葉には武田方について活動していましたが、1572年に織田方に鞍替えしました。同年武田氏との合戦（上村合戦）において明知遠山氏の当主景行が討死し、跡を継いだ利景も織田方につきました。1574年には武田勝頼の攻撃を受けて明知城は落城しました。本能寺の変後の清須会議の結果、利景は織田信孝に服属しました。翌年の賤ヶ岳の合戦、さらに翌年の小牧・長久手の合戦に伴う戦乱で羽柴方と敵対した利景は森氏に明知城を追われ家康を頼りました。

1600年、関ヶ原の合戦で利景は、前哨戦で明知城を攻略し、合戦後に旧領約6,500石を安堵されました。

1614年に利景が死去し方景（みちかげ）が跡を継ぎ、大坂の陣に従軍しました。1615年頃から参勤交代を始め、江戸と領地の明知を往復する旗本、交代寄合として活動していました。1678年に家督を継いだ伊清（これきよ）は幼年であったため参勤交代をやめ、以後明知遠山氏は江戸に常住します。

6. 一般向け現地説明会

日 時：12月13日（土）午後1時半～3時 小雨決行

内 容：担当者による説明（午後1時半～1回）、現場公開

順延時：12月21日（日）午後1時半～3時 小雨決行

※事前予約不要

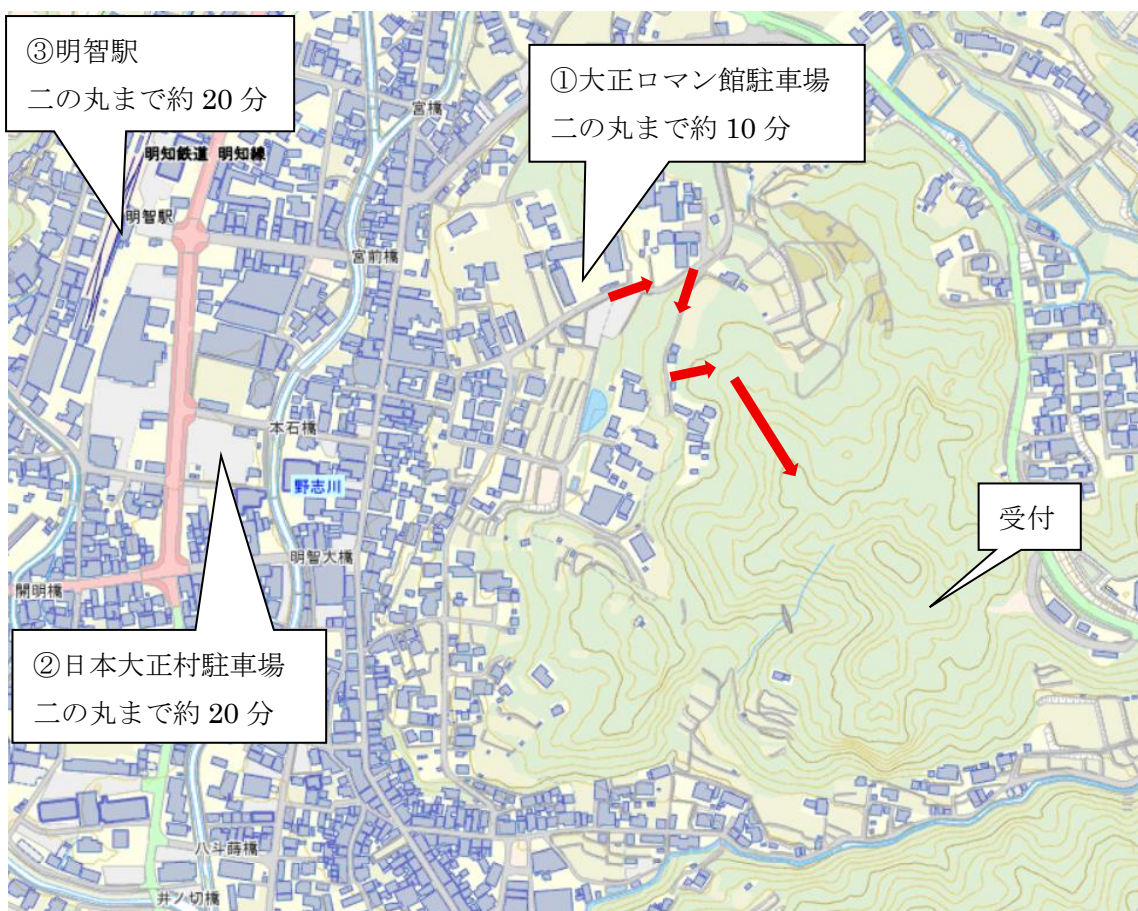
※順延の場合は12月13日（土）午前10時まで

下記の市ウェブサイトにて掲示します

<https://www.city.ena.lg.jp/soshikiichiran/kyoikuiinkai/bunka/annai/14767.html>



駐車場位置



二の丸駐車場からは案内板を設置します。

7. 今後の明知城跡総合調査事業

- ・令和8年度 明知陣屋跡の調査（建物、遺構、遺物確認）
歴史地理調査、文献調査
- ・令和9年度 総合調査報告書刊行
- ・その他 調査完了後に国史跡指定の意見具申を目指す